

私がいくら「沖縄の米軍基地をなくそう！」と叫んで反戦平和活動が続けてきた人間だとしても、日米安保条約のもと、沖縄に基地を押しつけながらその恩恵だけを享受している日本人であるというポジショナリティ（所属する社会的集団や社会的属性がもたらす利害関係にかかわる政治的な位置性）を変えることはできません。ただ、沖縄に基地を押しつけているという差別の行使をやめることはできます。しかし、それは、誰かがやめさせてくれるわけではなく、自らの責任でやめていくしかないのです。

その方法の1つが、私たちが押しつけている米軍基地を本来のあるべき場所へ、自分の住む大阪へ引き取ることだと思い、活動が続けてきました。戦争につながる基地をなくすことはもちろん大事なことだと思っています。でもそれが前面に立つとき、差別政策を強いられている沖縄の声はかき消され、無視され続けてきました。そして、多くの人々が日米安保を支持する日本社会の中で、「基地はどこにもいらない」と叫ぶことが、沖縄に過剰な基地負担を固定化させることにつながってきたのではないかと感じています。

そのことをきちんと踏まえ、まずは日本人の沖縄への差別や植民地の問題を解決するために行動していかなければならないと思っています。

「基地を引き取る」行動には様々な懸念があることも承知しています。まずは、「ポジショナリティ」が何であるか、これを捉えるときに事を複雑にしている問題は何かなどを、池田さんのお話の中で学びたいと思います。さらにみんなで議論し、「引き取る行動」について考える場がもてたらと思います。「基地を引き取る」ことに賛成できないという方の参加ももちろん大歓迎です。ぜひご参加ください。